

令和2年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和3年5月19日

ヤマザキ動物専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	5
基準 2 学校運営	6
基準 3 教育活動	6
基準 4 学修成果	7
基準 5 学生支援	7
基準 6 教育環境	8
基準 7 学生の募集と受入れ	9
基準 8 財務	9
基準 9 法令等の遵守	9
基準 10 社会貢献・地域貢献	10

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標

- (1) 建学の精神
「生命への畏敬」
「職業人としての自立」
“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ”この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。
- (2) 教育理念
「生命を生きる」
動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。
「礼節や思いやりの心を大切にする」
全ての学修を通して、正しい人生観、社会観、自然観の思想を背景に、学問・技術の修得にとどまらず、礼節や思いやりの心を育み、人として備えるべき教養を重視。
- (3) 3つのポリシー
アドミッション・ポリシー
・本校の建学の精神及び教育理念に共感する者。
・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者。
・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にする者。
カリキュラム・ポリシー
・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。
ディプロマ・ポリシー
・修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。
・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術及び能力を身に付けている。

令和2年度重点目標

- ①学生の受入れ
ア. 入学者の受入方針と方法
動物看護・美容・トレーニング学科の養成する人材像に基づき、以下のアドミッション・ポリシーを掲げ、AO入学試験、指定校推薦入学試験、学校長推薦入学試験、一般入学試験、社会人・大学生枠入学試験により選抜を実施し、人と動物の架け橋となる学生を受け入れる。
・本校の建学の精神と教育理念に共感する者
・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者
・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にする者
イ. 学修支援
AO入学試験の合格者を対象に入学前教育として、思考力や表現力を問うために、①新聞記事の中から、最近のトピックスの中から興味を持ったニュースを選択し考察する。②犬や猫の品種についてまとめる課題を提出させ、添削を行う。これにより入学前の学修意欲を高め、学生が円滑に入学できるようにする。
また、在校生を対象に、動物看護師統一認定機構による動物看護師統一認定試験の合格率向上のため、試験対策の掲示板を設置し全学年へ情報を提供する。1年次は定期的に模擬試験を実施し、2年次は模擬試験の実施の他、対策講座を設け指導に当たる。
ウ. 特待生制度・奨学金制度
本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生等に奨学金を給付する。
エ. キャリア支援
きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って相談・指導を実施する。全卒業生に対して80%以上の就職、希望者に対しては95%以上の就職実績を目標とし、達成し続けている。これを継続させるために、就職支援課による正科目「キャリアアップ」をより一層強化する。
オ. 教育環境の再整備
渋谷キャンパス2号館の学習環境インフラについて、築後20年を経過しているため、計画的な入れ替えを図る必要がある。今後も、在校生の規模にあわせた環境整備計画の変更などを検討する。

②教育課程

ア. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物愛護の精神に則り、動物看護、動物美容、トレーニングの知識と技術を身に付けた即戦力をもった人材を養成する。

カリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである。

- ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
- ・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング（動物美容）、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身につけ、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。

動物看護・美容・トレーニング学科1年生のカリキュラムは「認定動物看護師養成新コアカリキュラム」を採用している。

基礎動物看護学を基礎科目、応用動物看護学及び臨床動物看護学を専門科目、実習を総合科目として対応している。就職対策や動物看護職統一認定試験対策である「キャリアアップ」及び「動物看護総合実習」の授業充実を継続する。「コンパニオンアニマルケア実習」及び「ドッグトレーニング実習」では復習を計画的に取り入れ反復し、教育効果を高める。

ディプロマ・ポリシーは次のとおりである。

- ・修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。
- ・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術及び能力を身につけている。

また、教育課程編成委員会を年2回以上開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築し、教育課程の充実を図る。

イ. カリキュラム

令和元年6月に愛玩動物看護師法が制定されたことに伴い、愛玩動物看護師国家試験に対応するカリキュラムを整備する。

ウ. 職業実践専門課程

動物看護・美容・トレーニング学科（2年制）が認可を受けている。職業実践専門課程は、高等教育における実質的かつ継続的に、企業・関係施設・関連団体等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を修得できる実践的な職業教育に取り組む学科であることを証されるもので、組織的な改善に向けた積極的な姿勢や具体的な取組を図り対応していく。

エ. 成績評価と授業評価

成績評価については、GPA（Grade Point Average）による厳格な成績管理を実施し、修学度等の調査を効率的に実施している。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、講師自身が授業の励みとするとともに、授業の改善に活かしている。この方法を今年度も踏襲する。

③FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員の能力・資質向上に努める。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検・評価報告書としてまとめ、公表する。

④学生サービス

ア. 学生相談

クラスアドバイザー（担任、以下CA）、アシスタントアドバイザー（副担任、以下AA）によるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応する。また必要に応じて保護者と連携する。また、必要に応じ、スクールカウンセラーを紹介する。

イ. 奨学金・金融機関融資紹介

専門学校では大学と同様に、建学の精神に則り、向学心に富み、学力・技能に優れ、将来動物看護に関する分野の指導者をめざす学生の人材育成を目的とする奨学金制度が設けられている。同奨学金については家計急変者についても対象となり、卒業間際の経済的救済にも道が開けている。また、日本学生支援機構の奨学金に加え、提携による融資先である株式会社ジャックス、株式会社オリエントコーポレーションへの紹介をしている。これらを学生サービスの一環として、教職員の連携を図りながら対応していく。

ウ. 高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策定・公表を実施するなど、支援対象となる大学等の要件（機関要件）の対応を継続する。

⑤広報活動の強化

ア. 安定的な入学者の確保

18歳人口が減少する中、募集定員の充足は、最重要課題であり、本校の特色を広く広報するため、一層の努力と工夫が求められる。本校は、入試広報課を中心とし、高等学校への訪問、進路ガイダンスへの参画、ホームページ、進学情報サイトの充実、オープンキャンパス内容の改善、受験生の進学志向の変化、競合他校の分析、志願方法、入学試験の実施方法などを総合的に検証し、同分野他校との差別化を図り、広報活動を実施していく。

イ. 令和3年度学生募集

令和3年度学生募集でも奨学金制度及び特待生制度を最大限活用するとともに、高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパスに全教職員が協力し、本校の特色について積極的な説明を強化する。さらに、オープンキャンパスでは、個別相談の時間を設けることで受験生及び保護者の個々のニーズに丁寧に対応し、本校の理解度を高め、他校とのより一層の差別化を図ることに重点を置く。

⑥退学者の低減

退学者の低減についてはCA、AA及び学年主任を中心として、個人相談等様々な努力を行っている。今後も各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、更なる退学率低減を目指す。

⑦自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局）」に基づき当校教職員全体で実施しており、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んでいる。

学校関係者評価に関しては年1回以上実施し、学校関係者評価委員会より評価内容を校長に報告する。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、校長が教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築している。

⑧地域連携等

渋谷区の開催する渋谷防災フェス、せせらぎまつりなどの行事に参画する。教職員も専門学校の近隣4社と協力して近隣清掃ボランティアを行う。

重点目標・計画の達成状況

①学生の受入れ

認定動物看護師の受験資格は「動物看護師養成所（専修学校等）において、2年以上、動物看護師としての必要な知識及び技能を修得した者」であったが、令和元年6月「愛玩動物看護師」の法制化により、愛玩動物看護師国家試験の受験資格は、「愛玩動物看護師養成所（専修学校等）において、3年以上、愛玩動物看護師としての必要な知識及び技能を修得した者」となった。このことに対応するため、動物看護・美容・トレーニング学科（2年制）を改組し、令和3年度より愛玩動物看護学科（3年制）を新設するため、学則変更を届け出た。また、同時に、募集停止をしていた動物看護・美容学科の廃止を行った。

ア. 入学者の受け入れ方針と方法

愛玩動物看護学科の養成する人材像に基づき、以下のアドミッション・ポリシーを掲げ、AO入学試験、指定校推薦入学試験、学校長推薦入学試験、一般入学試験、社会人・大学生枠入学試験により選抜を実施し、人と動物の架け橋となる学生を受け入れた。

- ・本校の建学の精神と教育理念に共感する者
- ・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者
- ・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にしている者

イ. 学修支援

AO入学試験の合格者を対象に入学前教育として、思考力や表現力を問うために、①新聞記事の中から、最近のトピックスの中から興味を持ったニュースを選択し考察する、②犬や猫の品種についてまとめる、という課題を提出させ、添削を行った。これにより、入学前の学修意欲を高め、学生が円滑に入学できるようにすることを目的としたものである。

また、在校生を対象に、動物看護師統一認定機構による動物看護師統一認定試験の合格率向上のため、試験対策の掲示板を設置し全学年へ情報を提供した。1年次は定期的に模擬試験を実施し、2年次は模擬試験の実施の他、対策講座を設け指導に当たった。なお、模擬試験及び対策講座等は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、オンラインを中心に実施した。

ウ. 特待生制度・奨学金制度・教育支援金制度

本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生及び家計急変者等に奨学金を給付しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響下で、家計急変及び生活困窮となった場合に支援することを目的としたヤマザキ教育支援金制度を発足し、学生支援を行った。内容は以下の通りである。

- 第1期「学習環境整備支援金」
- 第2期「家計急変・生活困窮支援金」
- 第3期「休学支援金」
- 第4期「学業継続学生対象生活費支援金」

エ. キャリア支援

きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って、相談・指導を実施した。全卒業生に対して80%以上の就職、希望者に対しては95%以上の就職実績を目標としている。これを継続させるために、就職支援課による正科目「キャリアアップ」をより強化すると共に、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの就職指導や求人票閲覧を出来るようにし、学生の就職活動に支障が出ないように対応した。これにより、全卒業生に対して84%、希望者に対して97%の就職実績を達成し、コロナ禍においても例年と変わらぬ内定率となった。

オ. 教育環境の再整備

渋谷キャンパス2号館の経年劣化している学習環境インフラについて、計画的な入れ替えを行う必要があるため、年次計画で改善を図ることにした。本年度は渋谷キャンパス2号館4階教室のエアコンを入れ替え及びICT教育環境整備のために5階教室内のWi-Fi環境整備を行った。同様に老朽化している犬のトレーニング施設であるレインボーホールについては、教育環境向上を目的とし、6階建の渋谷キャンパス2号館B棟として竣工予定で増築工事を行っており、令和3年12月末に竣工予定である。これにより体育館をリニューアルすることで、ドッグトレーニング実習及びコンパニオンアニマルケア実習の充実を図る。

また、在校生の規模に合わせて、校舎の活用計画として、渋谷キャンパス2号館の教室の一部を専門学校専用部分からヤマザキ動物看護専門職短期大学専用部分に変更した。

②教育課程

ア. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物愛護の精神に則り、動物看護、動物美容、トレーニングの知識と技術を身に付けた即戦力をもった人材の養成に努めた。

カリキュラム・ポリシーは、以下の通りである。

- ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
- ・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身につけ、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。

ディプロマ・ポリシーは次の通りである。

- ・修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。
- ・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術及び能力を身につけている。

また、教育課程編成委員会を年2回開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映した。同委員会の結果は同委員会に報告され、PDCAのサイクルを構築し、教育課程の充実を図った。

イ. カリキュラム

令和元年6月に愛玩動物看護師法が制定されたことに伴い、愛玩動物看護師国家試験に対応するカリキュラムを整備した。令和3年度よりスタートする愛玩動物看護学科のカリキュラムについては、令和3年2月22日に行われた愛玩動物看護師カリキュラム等検討会で発表された「大学及び養成所において履修すべき科目」に基づき、愛玩動物看護師の要請に必要な科目に対応するため、カリキュラムを再編成し、令和3年3月に学則変更を渋谷区へ届け出た。

動物看護・美容・トレーニング学科は、「認定動物看護師養成新コアカリキュラム」に基づき、基礎動物看護学を基礎科目、応用動物看護学及び臨床動物看護学を専門科目、実習を総合科目として対応した。「コンパニオンアニマルケア実習」及び「ドッグトレーニング実習」では復習を計画的に取り入れ反復し、教育効果を高めた。

ウ. 職業実践専門課程

動物看護・美容・トレーニング学科（2年制）が認可を受けている。職業実践専門課程は、高等教育における実質的かつ継続的に、企業・関係施設・関連団体等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を修得できる実践的な職業教育に取り組む学科であることを証されるもので、組織的な改善に向けた積極的な姿勢や具体的な取組を図り対応した。

エ. 成績評価と授業評価

成績評価については、GPA（Grade Point Average）による厳格な成績管理を実施し、修学度等の調査を効率的に実施した。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、講師自身が授業の励みとするとともに、授業の改善に活かした。本年度よりオンラインでの授業評価アンケートへ変更し、ペーパーレス化を図った。

オ. 授業形態について

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府による緊急事態宣言や東京都の要請により、学生の安全確保と学修機会の確保のためオンライン授業を導入した。対面授業とオンライン授業のハイブリット型にて授業を実施し、実技を伴う実習授業については、十分な感染防止対策をとり、対面による授業を実施した。アルコール等による手指衛生管理の徹底やソーシャル・ディスタンスの確保など、「3密」とならない指導を行った。

③FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員的能力・資質向上に努めた。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検・評価報告書としてまとめ、公表した。

④学生サービス

ア. 学生相談

CA、AAによるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応すると共に、必要に応じ保護者とも連携し、学生支援を行った。また、保護者とも連携し、必要に応じて対面・オンラインでの面談の機会を設けるなどして学生支援をおこなった。

イ. 奨学金・金融機関融資紹介

専門学校では大学・専門職短期大学と同様に、建学の精神に則り、向学心に富み、学力・技能に優れ、将来動物看護に関する分野の指導者を目指す学生の人材育成を目的とする奨学金制度が設けられている。同奨学金については家計急変者についても対象となり卒業間際の経済的救済にも道が開けている。前述の通り、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響下で、家計急変及び生活困窮となった場合に支援することを目的としたヤマザキ教育支援金制度を発足し、学生支援を行った。

また、日本学生支援機構の奨学金や新型コロナウイルス感染症対策助成事業、文部科学省の「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』に加え、提携による融資先である株式会社ジャックス、株式会社オリエンコーポレーションへの紹介をしている。これらを学生サービスの一環として、教職員の連携を図りながら対応した。

ウ. 高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

支援対象となる大学等の要件（機関要件）に対応した。具体的には、シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策定・公表を実施した。

⑤広報活動の強化

ア. 安定的な入学者の確保

東京都内の動物系学科・コースを持つ専門学校11校の中で、本校の特色を多くの出願検討者に認知してもらえる機会を与えるため、年18回のオープンキャンパスを実施した。参加者数は昨年比で増加し、入学者は定員80名に対し、95名であった。

今後、18歳人口が減少する中、募集定員の充足は最重要課題である。都内大学進学率の増加、通学時間の減少により、専門学校の学生募集はより困難を強いられる。したがって、本校や分野の特色のみならず、専門学校という教育機関の魅力を発信することが今後の課題であるが、令和3年度の入学生は入学定員の1.9倍となり目標を達成できた。

イ. 令和3年度学生募集

令和3年度学生募集では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインやWEBを最大限活用した募集活動を行い、参加者の安全の確保と遠方からの参加者へも本校の特色を広報することが出来た。来校型のオープンキャンパス等については、検温や手指の消毒、受け入れ人数を制限する等の徹底した感染症対策の下、実施した。また、高校ガイダンスや会場ガイダンスについても感染防止のため、オンラインで実施した。

⑥退学者の低減

退学者の低減についてはCA、AA及び学年主任を中心として、個人相談等様々な努力を行った。その結果、令和2年度の退学者はなく、退学率は約0%になった。（参考：東京都専門学校の年間平均退学率約10%）今後も各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、更なる退学率低減を目指す。

⑦自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局）」に基づき当校教職員全体で実施し、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んだ。

学校関係者評価に関しては学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価内容を校長に報告した。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、教育課程に反映し、結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築し、教育の質の向上に努めた。

⑧地域連携等

例年、渋谷区の開催する渋谷防災フェス、せせらぎまつりなどの行事への参画や、教職員による専門学校との近隣4社と協力して近隣清掃ボランティアを行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、実施を見送った。

課題と解決策

- ・本年度の学生募集については、新型コロナウイルス感染症対策として、WEBを最大限に活用した募集活動を行った。まだまだ終わりの見えないコロナ禍においては、参加者の安全の確保を保ちつつ、遠方からの参加者にも学校を知ってもらうため、今後もWEBの利用を継続して行うことが肝要である。
- ・退学者については、入学前説明を受験生一人一人に教務・学生課が行いミスマッチを防げたことが、本年度の退学者を出さなかったことにつながったと考えられる。しかし、令和3年度募集に関しては新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での入学前説明が出来なかったため、入学後のCAによる個人面談等でミスマッチが生じないように学生一人一人のアフターフォローをしていく。
- ・保護者とCAとの面談については、希望制で随時行う方針とした。今後も保護者と連携を取りながら学生支援を行い、指導ができる体制を整えていく。
- ・施設の老朽化については、中長期構想委員会等で検討し、本年度から令和3年度にかけて渋谷キャンパス2号館B棟の増改築工事を行う。それに伴い、老朽化しているエアコンの入替えや教室内の机・椅子の入替を順次行い、教育環境整備を行う。
- ・教職員一丸となり、動物看護師統一認定試験の合格率向上及び愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のために、模擬試験の定期的な実施や試験対策講座の実施、苦手分野の強化対策を講じる。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

評価項目

- 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか
- 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか
- 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか
- 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか

総括

- ・建学の精神「生命への畏敬」、「職業人としての自立」に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得した優れた人材を養成する。
- ・3つのポリシー
 - アドミッション・ポリシー
 - ・本校の建学の精神と教育理念に共感する者
 - ・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者
 - ・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にする者
 - カリキュラム・ポリシー
 - ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
 - ・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。
 - ディプロマ・ポリシー
 - ・修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。
 - ・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術及び能力を身に付けている。
- ・一般財団法人動物看護師統一認定機構認定の認定動物看護師をはじめとし、NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の Animal Health Technician（動物衛生看護師）、Dog Grooming Specialist（犬の美容師）、Cat Grooming Specialist（猫の美容師）、Companion Dog Trainer（家庭犬のしつけ訓練士）、Canine Rehabilitation Therapist（犬の理学療法士〈基礎〉）等の6つの資格の取得を目指す。

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

- ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
- ・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。
- ・動物看護・美容学科（3年制 入学定員80名）及び動物看護・美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）は募集停止中である。
- ・動物美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）を廃止した。

基準 2 学校運営

評価項目	
2-2 運営方針	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか
2-3 事業計画	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか
2-4 運営組織	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか
2-5 人事・給与制度	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか
2-6 意思決定システム	2-6-1 意思決定システムを整備しているか
2-7 情報システム	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員連絡会において、運営方針・事業計画等を教職員に周知した。 ・学校関係者評価委員会において、教育方針・目的を検討した。 ・教務の意思決定については、原則として教務委員会で行い、カリキュラム編成小委員会、事務部と教育部の会議及び連絡会を行い、情報共有した。 ・ヤマザキ動物専門学校教務委員会において、教育課程の編成に関する事項を審議した。 ・人事、給与に関する規程等は整備されている。 ・教務の意思決定については、原則として教務委員会、カリキュラム編成小委員会、事務部と教育部の会議及び連絡会を行い、情報共有した。 ・前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定している。 ・イントラネット（サイボウズ）及び学校事務支援システム（スクールリーダー）により、業務の効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務については法人本部の要請を受け予算を提出している。 ・前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定している。

基準 3 教育活動

評価項目	
3-8 目標の設定	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか
3-9 教育方法・評価等	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか
	3-9-4 授業評価を実施しているか
3-10 成績評価・単位認定等	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか
3-11 資格・免許の取得の指導体制	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか
3-12 教員・教員組織	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会、カリキュラム編成小委員会を設置し、充実を図った。 ・学科毎の教育課程の編成や学習時間の確保は概ね成されている。動物看護・美容・トレーニング学科、動物看護・美容学科共に、動物看護師統一認定機構推奨のコアカリキュラムに準拠した教育を実施した。 ・本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面授業とオンライン授業のハイブリッド型授業を実施した。 ・オンライン授業化に伴い、学園オンライン授業サイト Moodle や Forms を活用し、オンライン上でも授業視聴や試験・小テストが実施できる仕組みを整備した。 ・学校関係者評価及び教育課程編成委員会を実施し、卒業生・関連する業界・機関から意見や評価を頂いた。 ・授業評価アンケートにて在校生から授業内容についての意見を聴取し、担当教員へフィードバックした。 ・研修先訪問、求人先訪問にて研修生や卒業生の様子や指導内容に関しての要望等を教育部へフィードバックした。 ・各科目終了後に授業評価アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックした。 ・カリキュラムの分野バランスを毎年見直し、教員組織を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人先訪問や卒業生から実際の現場での要望を開き、授業内容に反映させている。 ・通常の授業の他に、オンラインや対面での定期的な模擬試験の実施、放課後対策や直前対策等を行った。 ・現場経験のある教員を多く採用し、授業の質向上を行っている。 ・教職員の研修・講習会終了後は、校内で報告会を行い、情報共有をした。

基準 4 学修成果

評価項目	
4-13 就職率	4-13-1 就職率の向上が図られているか
4-14 資格・免許の取得率	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか
4-15 卒業生の社会的評価	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って相談・指導を実施した。 ・毎年、就職先に対して卒業生の在籍状況を調査しており、卒業生に回答を依頼した。また、卒業生の掲載記事を就職支援課にてファイルをし、学生が自由に閲覧できるようにしている。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での授業が難しいことが多かったが、Moodle や Zoom 等を利用しオンラインでの授業を実施した。また感染状況を注視しながら、対面で主に実習授業を実施した。 ・認定動物看護師取得率の目標を設定し、通常の授業の他に、対策講座を実施した。受験年次だけでなく入学直後から資格取得を意識させるよう対策講座の構成を工夫した。 ・NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の6つの資格の取得を目指せるよう指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は全卒業生に対して 84%の就職、就職希望者のうち 97%の就職となり、目標を達成した。 ・卒業後の就職先への在籍調査では、平均勤務年数は 6.9 年であった。 ・動物看護師統一認定試験の合格率は 88.5%（動物看護・美容学科 90.5%、動物看護・美容・トレーニング学科 86.7%）であった（全国平均 83.97%）。

基準 5 学生支援

評価項目	
5-16 就職等進路	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか
5-17 中途退学への対応	5-17-1 退学率の低減が図られているか
5-18 学生相談	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか
5-19 学生生活	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか
5-20 保護者との連携	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか
5-21 卒業生・社会人	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか

	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援課職員が常駐し、就職相談ができる環境である。 ・日常的に学年主任、CAと情報交換をし、学生の微細な変化にも対応できる体制が整っている。 ・クラスアドバイザー制度により、一人ひとりに適正なアドバイスをおこなっている。また、定期的にCA、AAによる会議を行い、学生情報の共有をした。 ・入学にむけた支援や入学後の支援として、学校独自の支援制度である山崎良壽記念奨学金制度、特待生制度、奨学金制度、学費分納・延納支援などの制度を整備している。 ・学校保健安全法及び本校学則第30条に基づき各学年で年1回の健康診断を実施した。 ・年間を通して希望する保護者との面談の機会を設けた。 ・同窓会ではホームページでの情報発信を行った。 ・卒業教育に対する体制はNPO法人日本動物衛生看護師協会と連携を取り、グルーミングセミナー等を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンラインでの学生面談を導入した。 ・就職活動前より就職支援課による個別面談を行い、就職が決まるまで何度でも相談を重ね、就職指導を行った。 ・就職指導に関しては個別に面談し、社会人の適性に合わせた就職先を紹介している。 ・欠席者の把握を、サイボウズを使って学内で即日確認できる仕組みを作っており、教職員全体で学生の情報共有を行い、サポートをした。また、無断欠席者や欠席が続く学生に対してはCAより学生へ連絡を取っている。また、長期欠席者に対してはCA、学年主任で面談を行っている。 ・動物愛護フェスティバルへ学生から希望者を募りボランティア参加を支援した。

基準6 教育環境

評価項目	
6-22 施設・設備等	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか
6-23 学外実習、インターンシップ等	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか
6-24 防災・安全管理	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷キャンパス2号館の経年劣化している学習環境インフラについて、計画的な整備を行う必要があるため、年次計画で改善に取り組むことにした。 ・併設のコンパニオンアニマルセンターにて、就職活動に先駆け就業体験を積ませた。 ・卒業年次では、各自で動物病院、グルーミングサロン、ペットショップ等で研修を行った。 ・学校防災に関する計画、消防計画を再編し、消防署へ届け出た。災害発生時における具体的行動のマニュアルに沿って、施設・設備の耐震化や備品の転倒防止などの安全管理は徹底している。 ・防災備蓄を年次計画で購入し、災害に備えている。 ・学生及び教職員は定期的に避難訓練を実施するなど、防災研修・教育を行った。 ・学校安全計画や学生の生命と学校財産を守るための防犯体制の整備をしており、薬品等の危険物の管理においては定期的にチェックを行い、安全管理を徹底している。 ・授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを適切に運営している。 ・海外研修旅行の担当職員を明確化し安全管理体制の整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷キャンパス2号館4階教室のエアコンを入れ替え及びICT教育環境整備のために5階教室内のWi-Fi環境整備を行った。 ・老朽化しているイヌのトレーニング施設であるレインボーホールについては、教育環境向上を目的とし、6階建の渋谷キャンパス2号館B棟として竣工予定で増改築工事を行っており、令和3年12月末に竣工予定である。これにより体育館をリニューアルすることで、ドッグトレーニング実習及びコンパニオンアニマルケア実習の充実を図る。 ・例年、研修先には、就職支援課職員が事前説明をし、実習後はCA、AAが訪問し学生の様子をヒアリングしていたが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修先訪問を自粛した。 ・海外研修旅行、海外短期留学及び国内研修旅行は、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施できなかった。

基準 7 学生の募集と受入れ

評価項目	
7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか
7-26 入学選考	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか
7-27 学納金	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動において、本校の特徴や情報を具体的かつ分かりやすく提示するため、学校案内や募集要項の内容を明確化し、問い合わせの多い就職や入試などについては追加資料を制作し配布した。 ・希望者の多い1都3県の高校を中心に、進学ガイダンスへの参加、高校訪問を行うことで、高校生と高校教諭に対し、本校の情報提供を行った。 ・本年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、来場型のオープンキャンパスを年1回行い、オープンキャンパス・説明会をオンラインやWEBにより年16回、個別相談・施設見学希望者には個別に対応した。 ・入学試験では、AO入試のエントリーと出願を区別し、面接免除や内定等を出さない正規の実施方法に沿って行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、学生募集活動、入学試験を行った。

基準 8 財務

評価項目	
8-28 財務基盤	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか
8-29 予算・収支計画	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか
8-30 監査	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか
8-31 財務情報の公開	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・経常的収支・臨時的収支ともバランスが取れており、財務について会計監査が適正に実施された。 ・予算編成後、より実態に合わせた補正予算を年度内に実施した。 ・情報公開はホームページへの公開、保護者への郵送等で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務については法人本部の要請を受け予算案を提出している。

基準 9 法令等の遵守

評価項目	
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか
9-33 個人情報保護	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか
9-34 学校評価	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか

	9-34-2 自己評価結果を公表しているか
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか
9-35 教育情報の公開	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価報告書の作成、学校関係者評価を実施し、報告書をホームページにて公開した。 学校関係者評価で頂いたご意見は学校運営、教育へ活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 設置基準等不明確な事案については、適宜渋谷区私学主査に相談、指示を仰いでいる。

基準 10 社会貢献・地域貢献

評価項目	
10-36 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
10-37 ボランティア活動	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 動物愛護協会他、動物関連企業等への協力実施や、ボランティア活動や学生のボランティア活動支援を実施している。 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くのイベントが中止、オンラインでの実施となった。動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に本学園として参加し、動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」のオンラインでの基調講演に参加した。 年間を通し動物看護師の地位向上や動物福祉活動の一環として、渋谷一号館(松涛校舎)1階に公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部を設置し、犬や猫に対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」への協力をした。 卒業生を対象にしたリハビリテーション講習会の国際セミナーは規模を縮小し対面で実施した。 渋谷区と「災害時における帰宅困難者支援に関する協定書」を締結し、ヤマザキ動物看護専門職短期大学、ヤマザキ動物専門学校の校舎が災害時の帰宅困難者支援施設として指定を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年参加していた、渋谷区主催の地域交流を目的とした「渋谷区防災フェス」及び「せせらぎまつり」については新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で開催されなかった。